

2017年3月期 決算説明会

2017年5月23日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証第一部)

本日の内容

1. 経営環境

2. 2017年3月期 決算概況

3. 2018年3月期 業績予想

4. 中期経営計画

「バリュークリエーション2020」の進捗

1. 經營環境

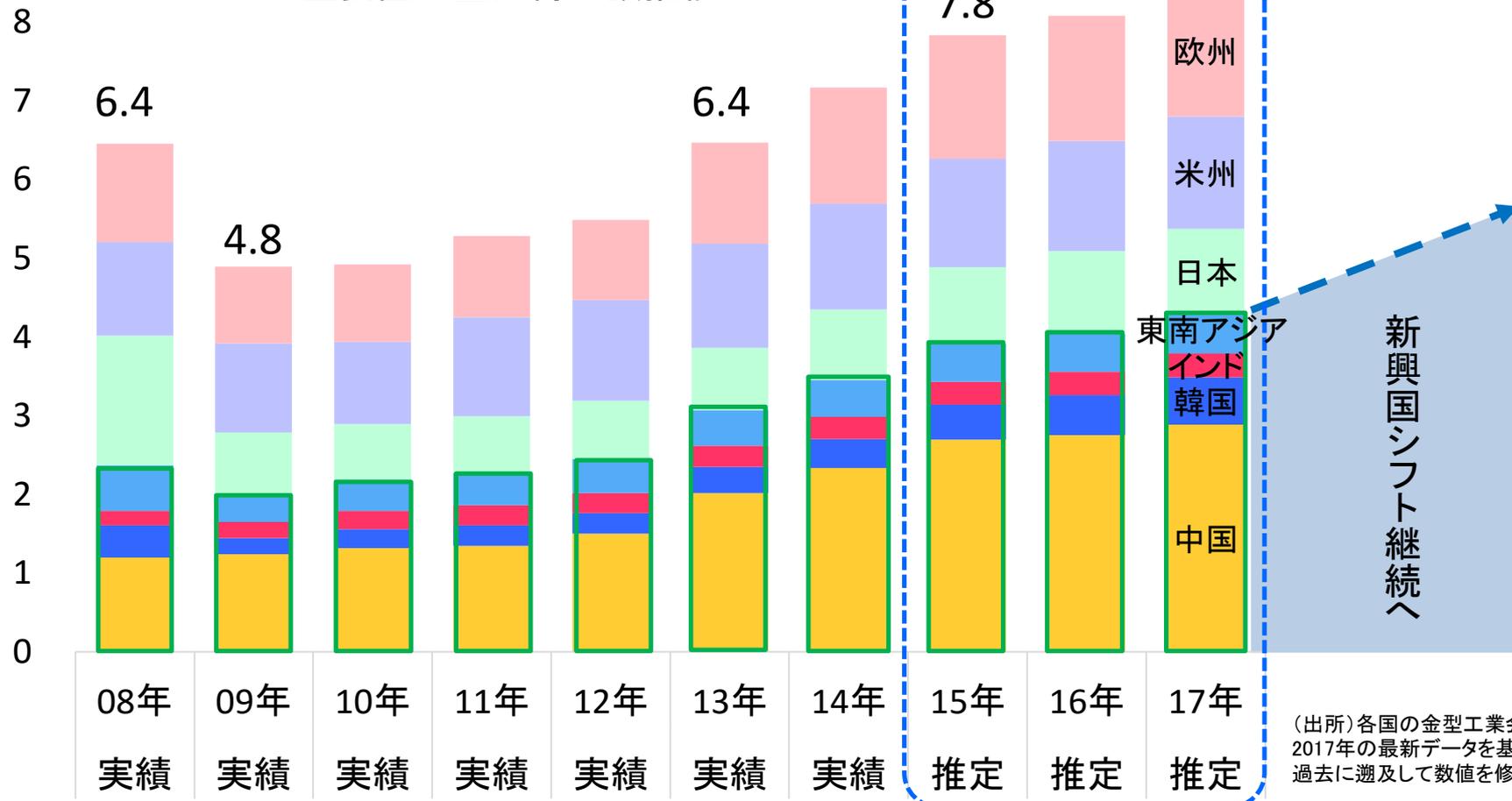


金型市場の予想(金額)

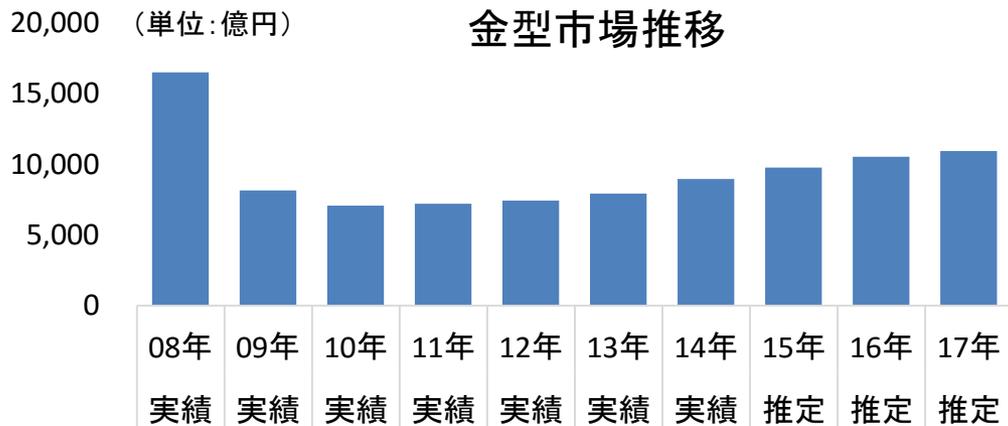
リーマンショック直後をボトムに着実に回復。右肩上がりの金型市場。

9 (単位:兆円)

主要国金型出荷金額推移



日本市場



企業収益は改善しており、個人消費や設備投資等は持ち直しの動き。景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

顧客業界 動向

自動車

拡大する海外需要に関しては現地調達が進んでいるものの、各メーカーの新車プロジェクトに動きがあり、回復基調。

電子部品

スマートフォンの普及が一巡、需要を牽引する製品が不在の状況ではあるが、引き続き高機能化・多機能化への強いニーズ。

その他

自動車向けや産業向けをメインとした半導体ニーズが拡大中。2017年も引き続き、受注活発の見通し。

当社課題

回復基調に転じた自動車関連の受注強化、食品・飲料関連等の新分野への積極的な取り組み。

中国市場



2017年1-3月期のGDP成長率は、前年同期比6.9%増となった。個人消費は堅調に増加しており、生産は伸びがこのところやや上昇している。景気は持ち直しの動きがみられる。

顧客業界 動向

自動車

小型車減税縮小の影響はあるものの、政府の自動車普及に関する政策などがあり、穏やかな市場成長を予測。

電子部品

現地メーカーのスマートフォン販売台数は増加中。販売価格はほぼ変わらず、成長傾向。

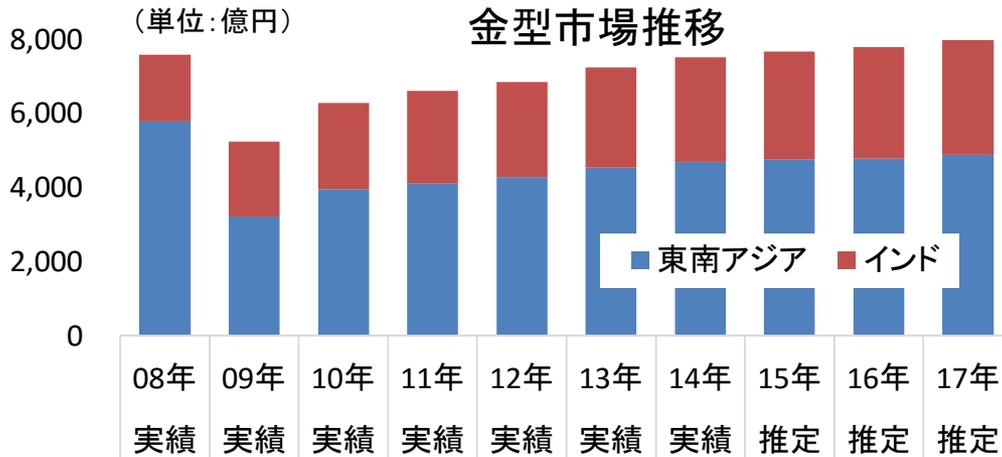
その他

穏やかな伸びではあるものの自動車向けをメインとした半導体ニーズが拡大中。

当社課題

戦略製品や医療関連等の高付加価値製品への取組みと大連工場拡張による特注品生産の強化と生産能力の拡大という質・量の両面から対応。

東南アジア・インド市場



【東南アジア】台湾、タイ、インドネシアにおいて景気は持ち直しの動きがみられる。

【インド】2016年10－12月期のGDP成長率は、前年同期比7.0%増。景気は内需を中心に緩やかに回復。

顧客業界動向

自動車

依然として市場は拡大傾向。自動車普及途上にある国が多く、経済成長とともに需要も成長中。

電子部品

スマートフォンの普及が進み、今後は中国以上の成長が見込まれ、世界市場を牽引と予測。

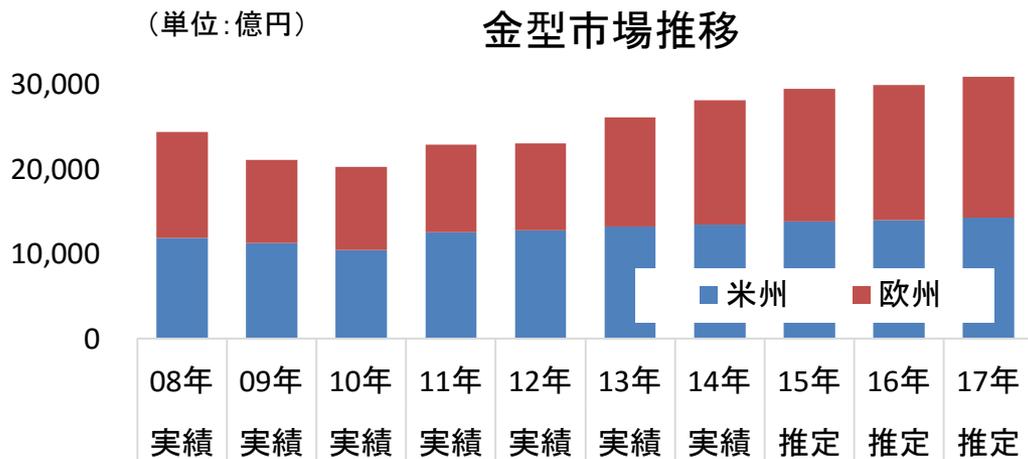
その他

各国の自動車市場の成長、及びスマートフォン市場の成長と比例して、全体量は多くはないが半導体市場が成長する兆しあり。

当社課題

ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、欧米向け輸出事業拡大と成長市場でのポジションの確立。

欧米市場



【欧州】ユーロ圏では、景気は緩やかに回復、2016年10－12月期のGDP成長率は、前期比年率1.9%増。

【米州】アメリカでの2016年10－12月期のGDP成長率は、前期比年率2.1%増。

顧客業界動向

自動車

欧州は、ハイブリッド車の販売が好調を維持。
米州は、市場環境に大きな変動はないものの、高採算なライトトラック比率の上昇や労働市場の改善といった好材料もあり。

電子部品

欧州は、パソコンや薄型テレビ等の需要が成長と予測。
米州では、白物家電が堅調に推移すると予測。

その他

欧米ともに、2017年の半導体業界は、メモリ分野、車載用製品などが成長を大きく牽引すると予測。

当社課題

米国における特注品市場を主体とした営業活動を強化。最適な生産拠点への振分けを行うグローバルソーシングを活用した欧州販路の更なる拡大。

2. 2017年3月期 決算概況

2017年3月期 決算ハイライト

中期経営計画「バリュークリエーション2020」の初年度は、増益を確保。
海外は現地通貨ベースで好調を維持。

売上	連結	連結売上高は、前年比99.7%、1億円減の366億円。
	日本	前年比101.7%の159億円。家電関連が引き続き軟調だが、半導体関連が年間を通して好調を維持、自動車関連の受注が回復基調。
	中国	前年比97.9%の174億円。自動車関連が牽引役、加えて高付加価値の戦略製品も伸長し、現地通貨ベースは好調を維持したが、為替変動の影響大。
	その他	前年比100.2%の33億円。 欧州、ベトナム、インドが好調に推移。
利益		営業利益は、前年比100.2%の19.9億円。売上減少による影響等があったものの、原価率が海外を中心に前年よりも良化したこともあり、増益を確保。経常利益は、為替リスクヘッジ策が奏功し、前年比112.5%の18.7億円。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比110.1%の13.7億円。バリュークリエーション2020の初年度の経営目標をほぼ達成。
ネット資金		ベトナム工場関連の投資等により、期首から14億円減少。

損益計算書サマリー

2016年11月時点、海外事業における為替変動による影響や、国内事業における景気の停滞が見込まれるため、通期の業績予想を修正。その後、為替レートの好転や海外事業が好調に推移したこともあり、結果として上場来最高益を更新。

(単位:百万円)

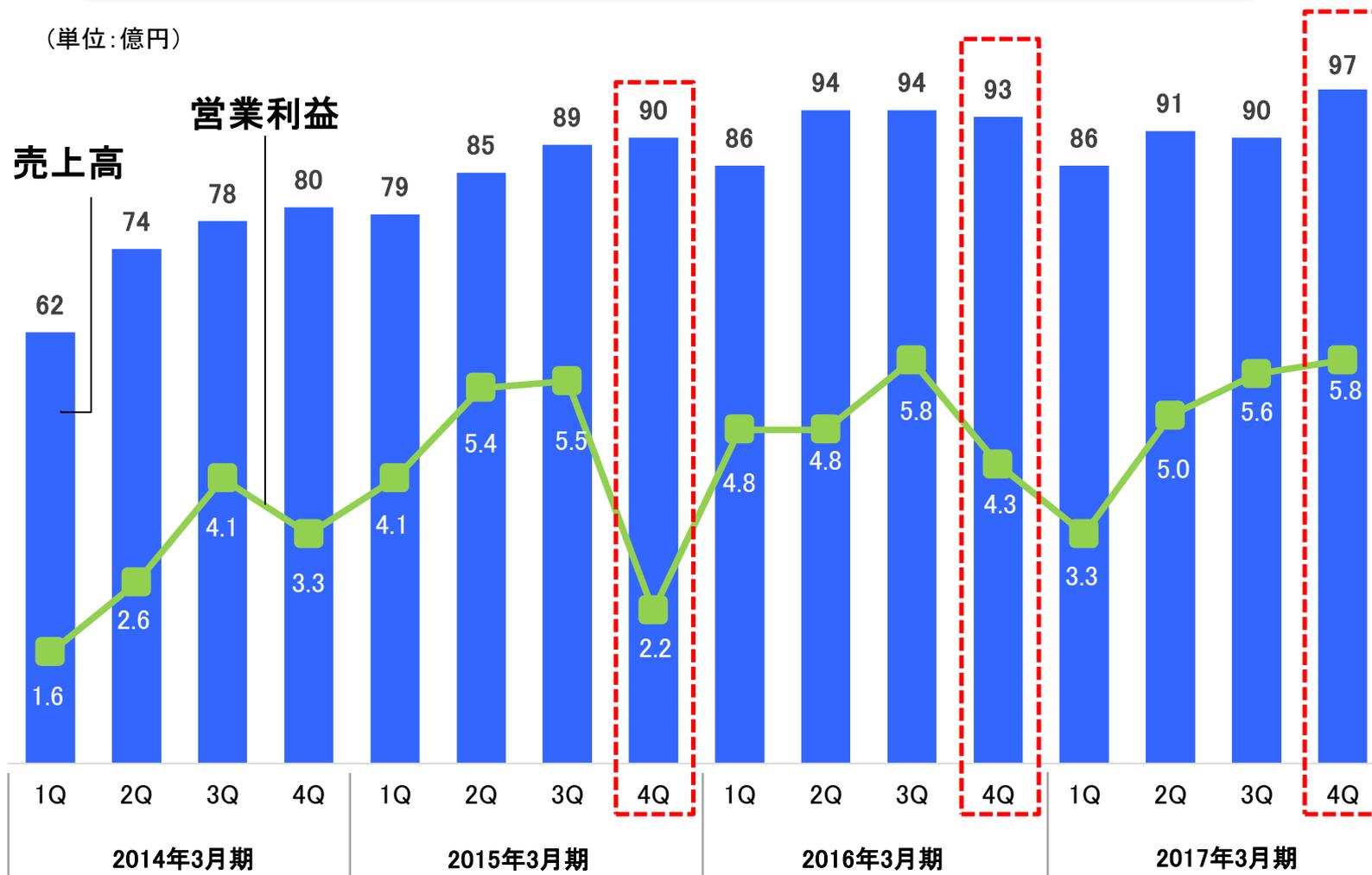
	2016年3月期 (実績)		2017年3月期					
			修正予想 (2016/11/10公表)		実績		前年差 (前年比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	36,755		35,700		36,648		▲106 (99.7%)	948 (102.7%)
営業利益	5.4%	1,986	5.0%	1,800	5.4%	1,990	4 (100.2%)	190 (110.6%)
経常利益	4.5%	1,666	4.8%	1,700	5.1%	1,874	207 (112.5%)	174 (110.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.4%	1,249	3.5%	1,250	3.8%	1,375	126 (110.1%)	125 (110.1%)



売上高と営業利益の推移

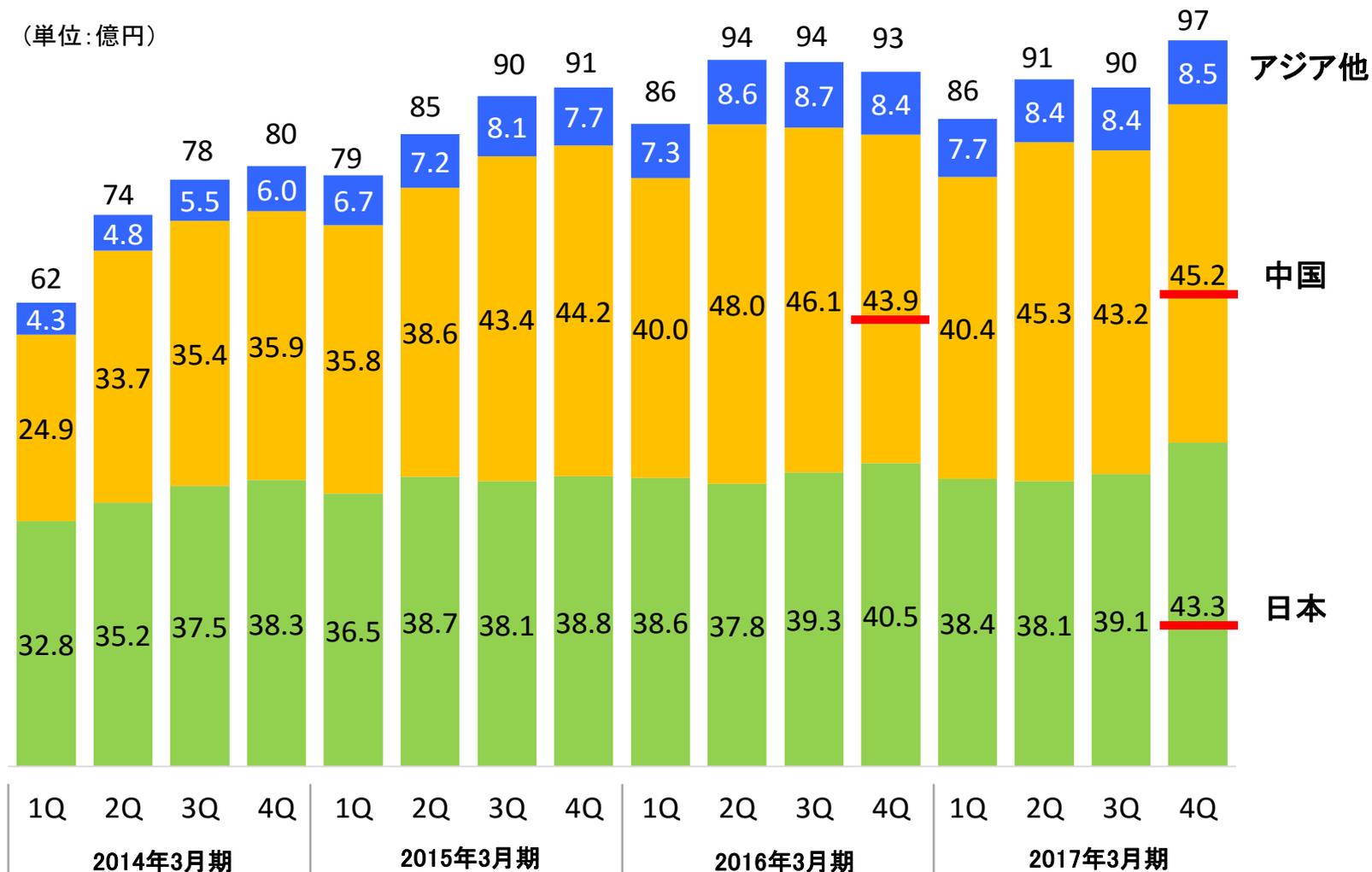
四半期ベースでの売上高は上場来最高、営業利益は最高水準

(単位:億円)



地域別売上高

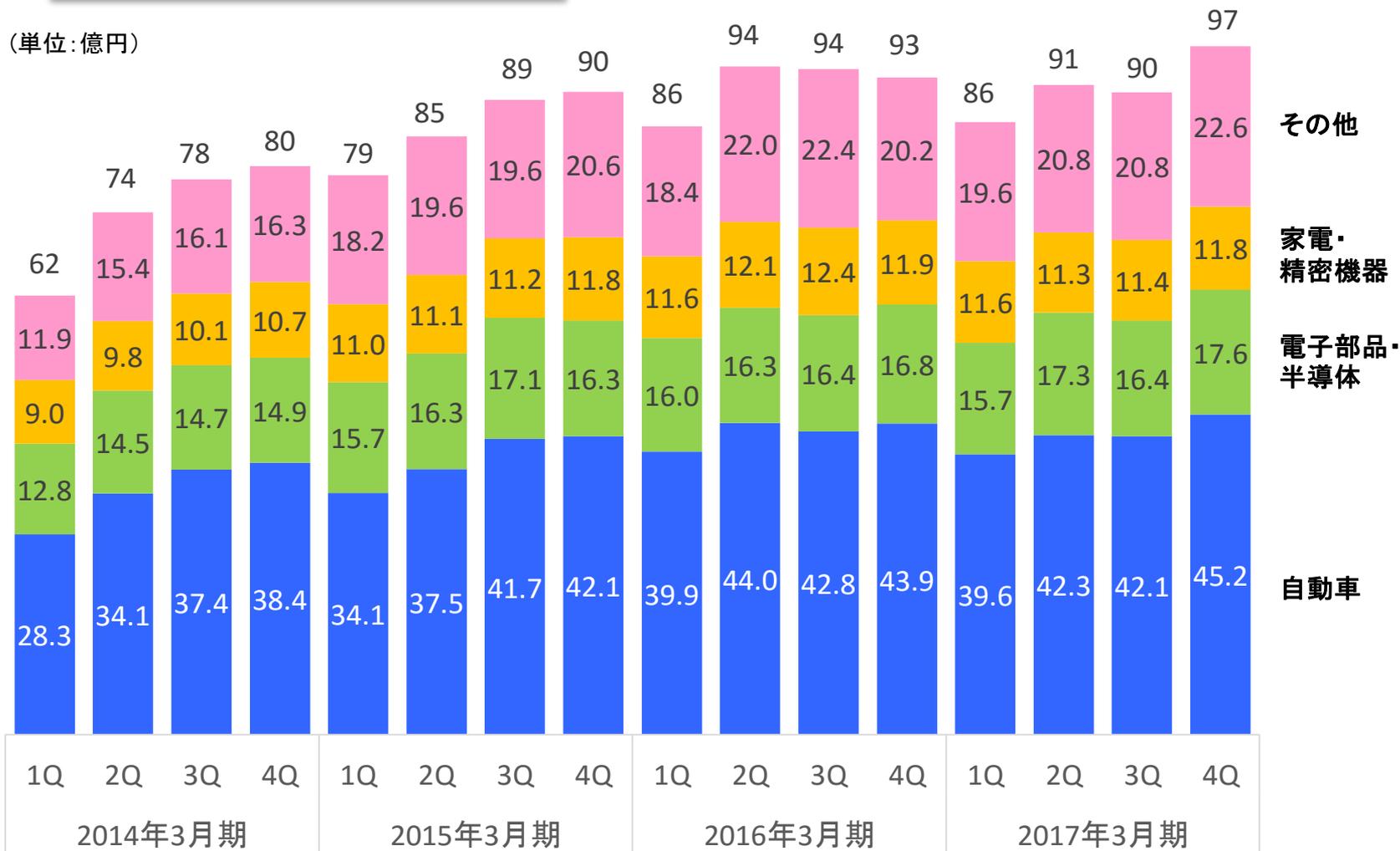
四半期ベースで、日本が上場来最高を更新



業種別売上高

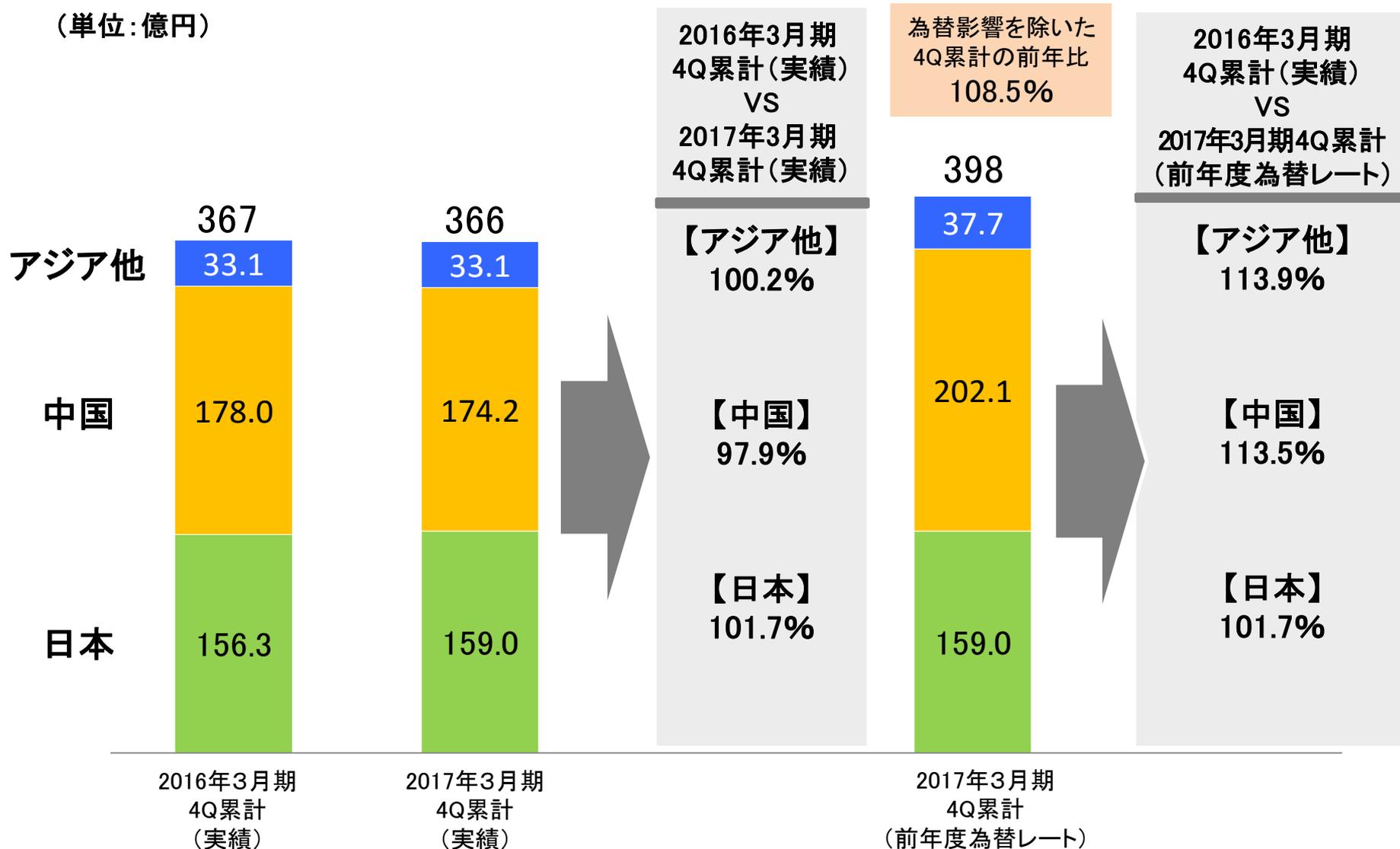
自動車関連の受注が拡大

(単位:億円)



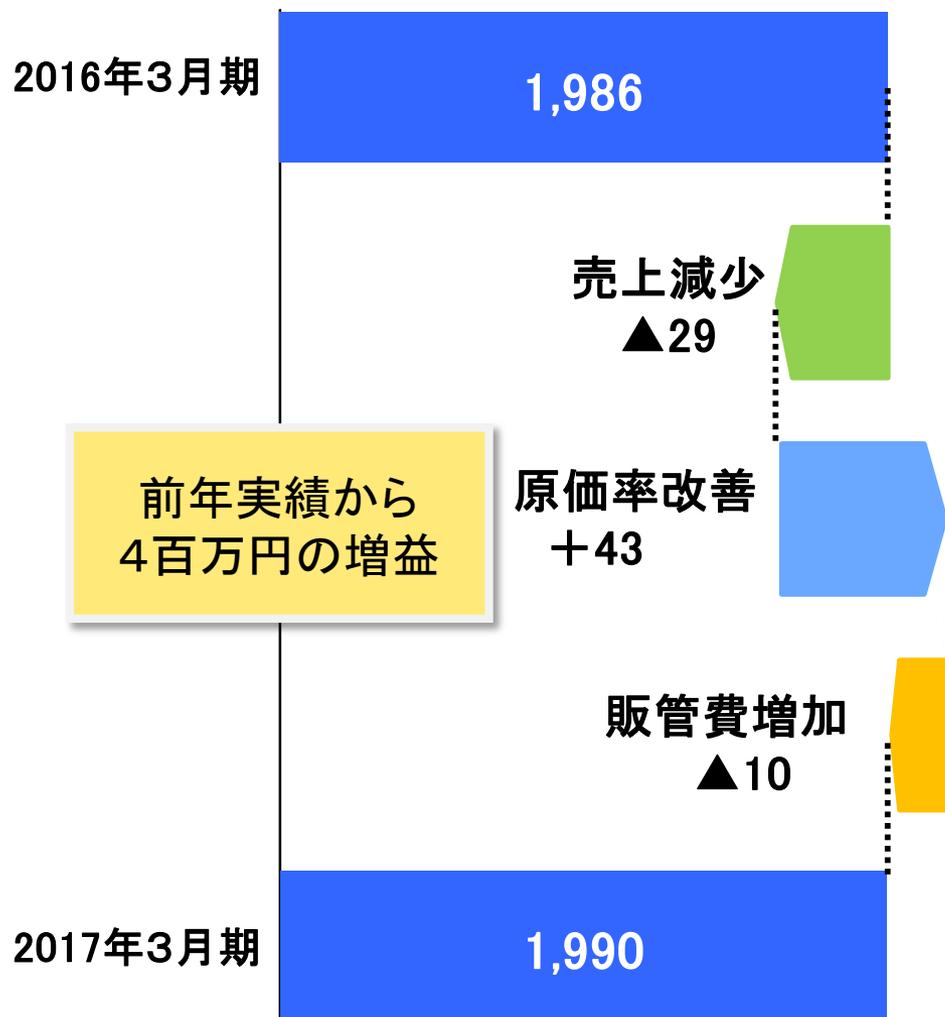
地域別売上高 ～前年度為替レートベース換算～

(単位:億円)



営業利益増減

(単位:百万円)



【売上の主な増減要因】

- 日本事業での家電・精密機器関連の売上が減少
- 海外事業での為替影響

【原価率の主な増減要因】

- 海外事業での業績堅調による原価率良化
- 内製品の受注増及び工場の稼働アップ

【販管費の主な増減要因】

- 研究開発費の増加
- リバースエンジニアリング事業のための人員、投資
- ベトナム工場の立ち上げ

貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2016年3月期末	2017年3月期末	比較増減
総資産	27,337	29,451	2,114
総負債	13,338	15,275	1,937
うち有利子負債	5,429	6,857	1,427
純資産	13,999	14,176	176
ネット資金	▲2,108	▲3,526	▲1,417

自己資本比率	51.2%	48.1%	▲3.1pt
自己資本利益率(ROE)	8.9%	9.8%	0.9pt

設備投資額(無形固定資産含む)	1,292	2,909	1,617
減価償却費(無形固定資産含む)	1,432	1,396	▲36



キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,187	1,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,159	▲2,770
フリーキャッシュ・フロー	2,028	▲985
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,901	1,199
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	▲66	33
現金及び現金同等物の期末残高	3,235	3,269



3. 2018年3月期 業績予想

2018年3月期 業績予想概況

バリューチェーン2020の2年目であり、高収益事業推進のためのバトンゾーン最終年。重点経営施策の一部である、ベトナム工場の本稼働(2016年10月)、米国販売拠点の設立(同年12月)と営業開始(2017年4月)等、計画通りに進捗中。

売上	連結	ベトナム工場での完成品製造に向けた第2フェーズ計画、米国販売拠点の販売体制確立等、体質強化や構造改革を推進し、前年比103.7%の380億円を見込む。
	日本	前連結会計年度の第4四半期より、活発な動きを見せ始めた自動車関連、新規取引のお客様が增加している半導体関連以外にも、食品・飲料関連の拡販を図り、前年比102.5%の162億円を見込む。
	中国	引き続き自動車関連を中心とした売上確保を狙う。高付加価値製品を拡販し、前年比102.4%の178億円を見込む。
	その他	2017年4月に営業を開始した米国販売拠点や東南アジア・インドでの事業拡大及び欧州での販路拡大を行い、前年比116.5%の38億円を見込む。
利益		ベトナム工場の生産体制強化に伴うグループ生産体制の最適化を行い、日中で高付加価値製品の拡販や米国等の、その他の地域での事業拡大等による増加を計画。営業利益は22億円、当期純利益は14億円を見込む。



2018年3月期 業績及び配当の予想

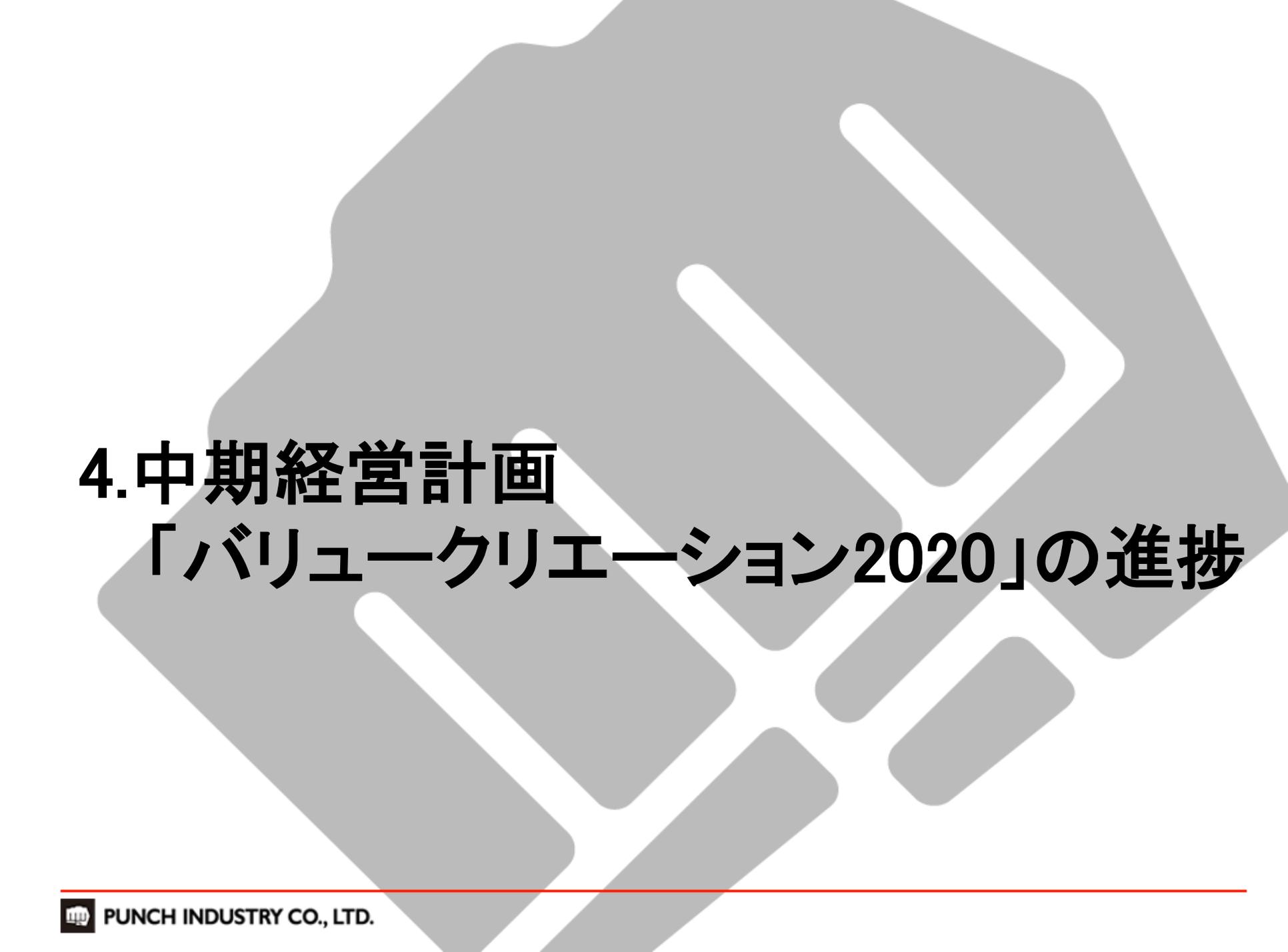
(単位:百万円)

	2017年3月期 (実績)		2018年3月期 (予想)		前年差	前年比
売上高		36,648		38,000	1,352	103.7%
営業利益	5.4%	1,990	5.8%	2,200	210	110.5%
経常利益	5.1%	1,874	5.5%	2,100	226	112.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3.8%	1,375	3.7%	1,400	25	101.8%
自己資本利益率 (ROE)		9.8%		9.3%	▲0.5pt	

2018年3月期
配当予想

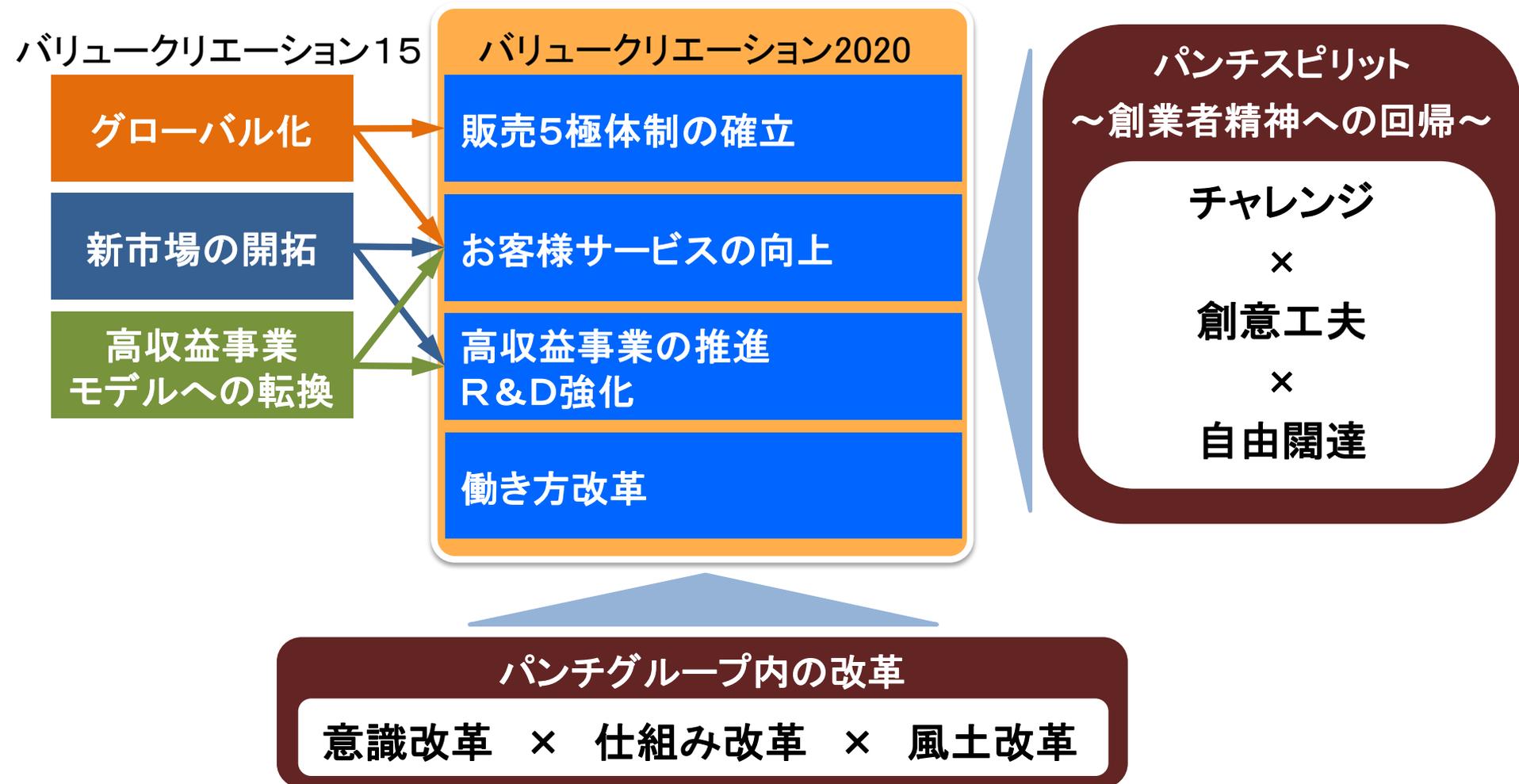
中間 13.5円 + 期末 13.5円 = 27円





4.中期経営計画 「バリュークリエーション2020」の進捗

連動する「バリュークリエーション」の重点経営課題



2017年4月より米国販売拠点の営業を開始

販売5極体制の確立

グループ会社の概要

会社名

PUNCH INDUSTRY USA INC.

設立予定地

米国 イリノイ州

事業内容

金型用部品の販売

資本金

300千米ドル(約30百万円)



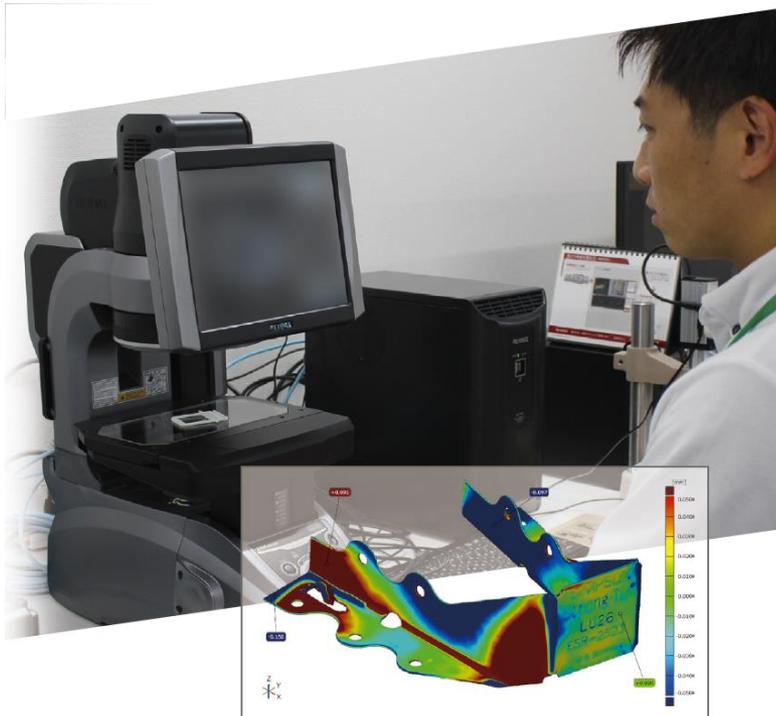
リバースエンジニアリングへの取組み

コスト削減

品質向上

作業効率UP

リバースエンジニアリング
図面がなくても**現物から3Dデータ化**



異業種十多業種のお客様からの引き合い

2016年10月よりベトナム工場の稼働を開始



- コンセプト
「お客様に見せられる
ハイテク工場」
- iPadでの図面管理
- IoTの活用
- カタログ品の原価率
改善（日本）
- 特注品の生産強化、
収益力強化（中国）

大連工場の増設(2018年3月 完成予定)

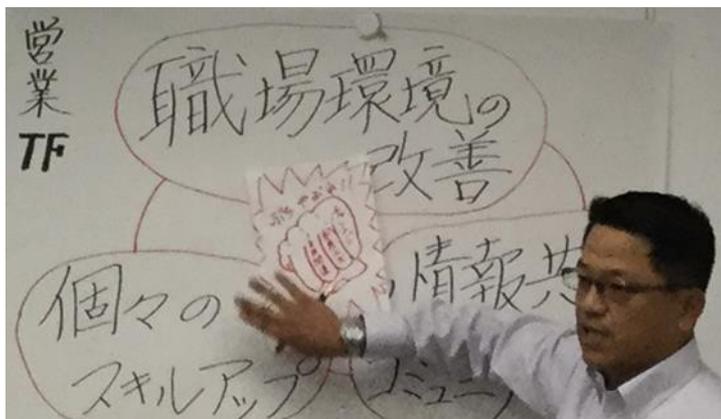


【工場増設の狙い】

- 戦略製品のライン新設
- 研究開発スペースの拡張
- 将来のさらなる設備増強に向けたスペースの確保

⇒ **質・量**の
両面から攻める

働き方改革委員会の発足



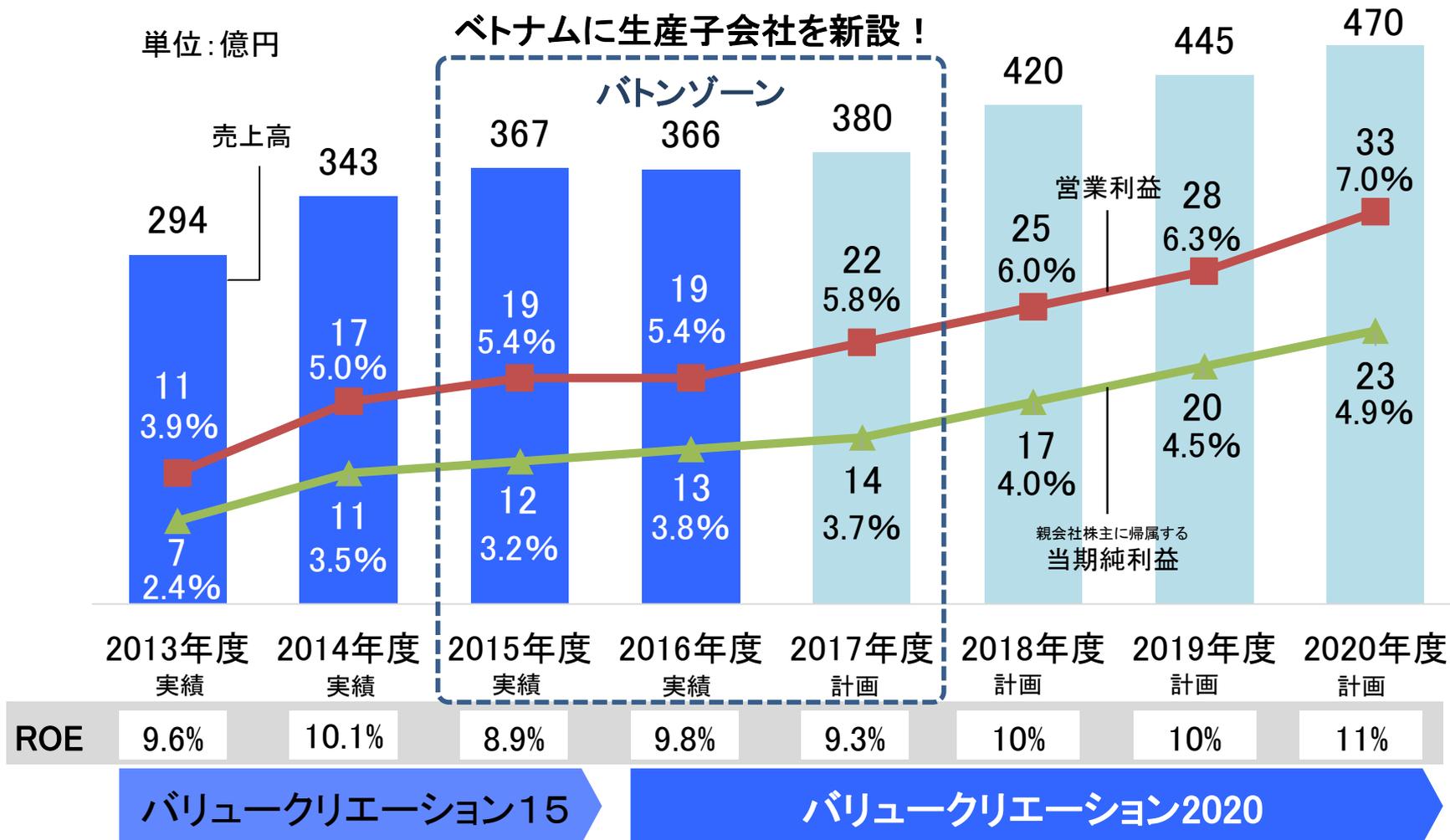
心から!!



パンチスピリット

経営目標 売上・利益の推移

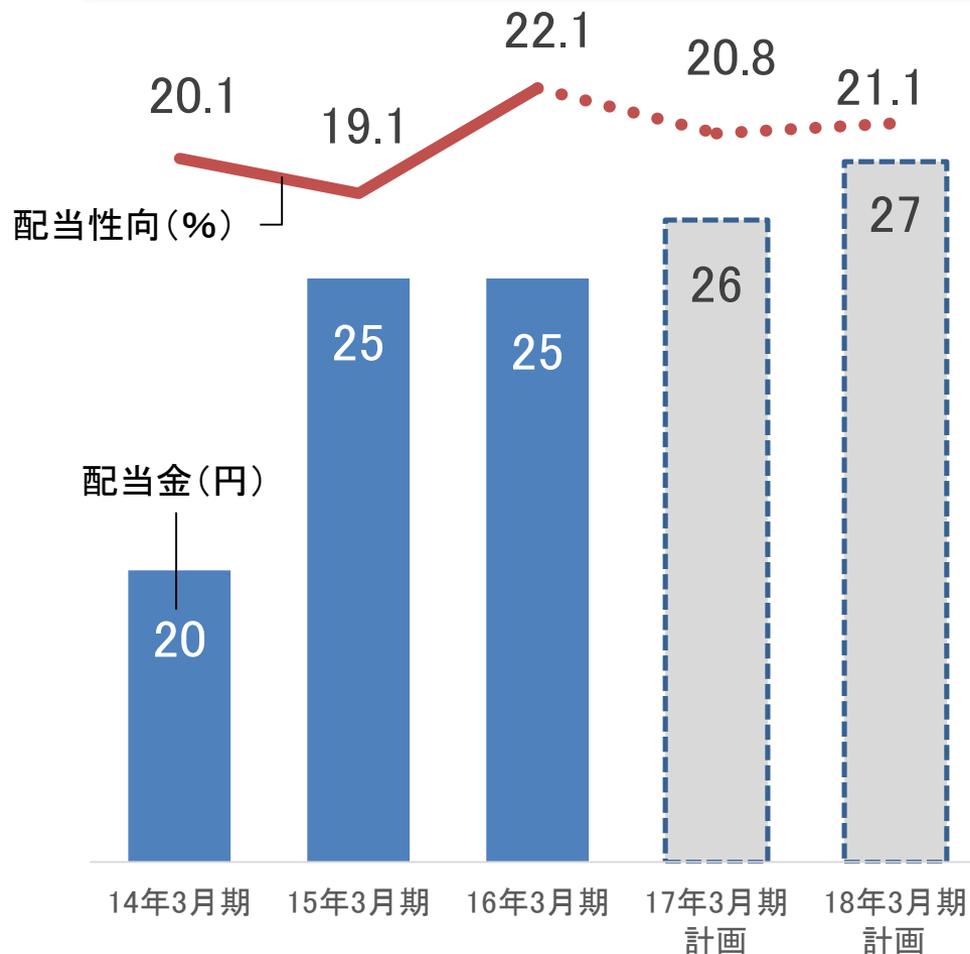
2020年度 売上高**470億円以上** 営業利益**33億円以上** 当期純利益**23億円以上**



1株当たり配当金と配当性向

【配当方針】

安定かつ継続的な配当に加え、業績連動により連結配当性向20%以上を目安としており、2021年3月期を目途として、段階的に30%へ引き上げることが目標



継続的企業価値向上の基盤は、株主の皆さまからの「信頼」と「応援」であり、「期待」にお応えすることが経営の重要課題。

2018年3月期の配当
中間・期末ともに13円50銭
= 27円予定(昨年より1円増配)

参考資料

会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都品川区南大井6丁目22番7号
設立	1975年3月
資本金	28億9,773万円
従業員数	3,959名(グループ連結、2017年3月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PUNCH INDUSTRY MANUFACTURING VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア) PUNCH INDUSTRY USA INC.(米国)

※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD. に事業を移管し、2016年9月27日付けで清算を結了しております。



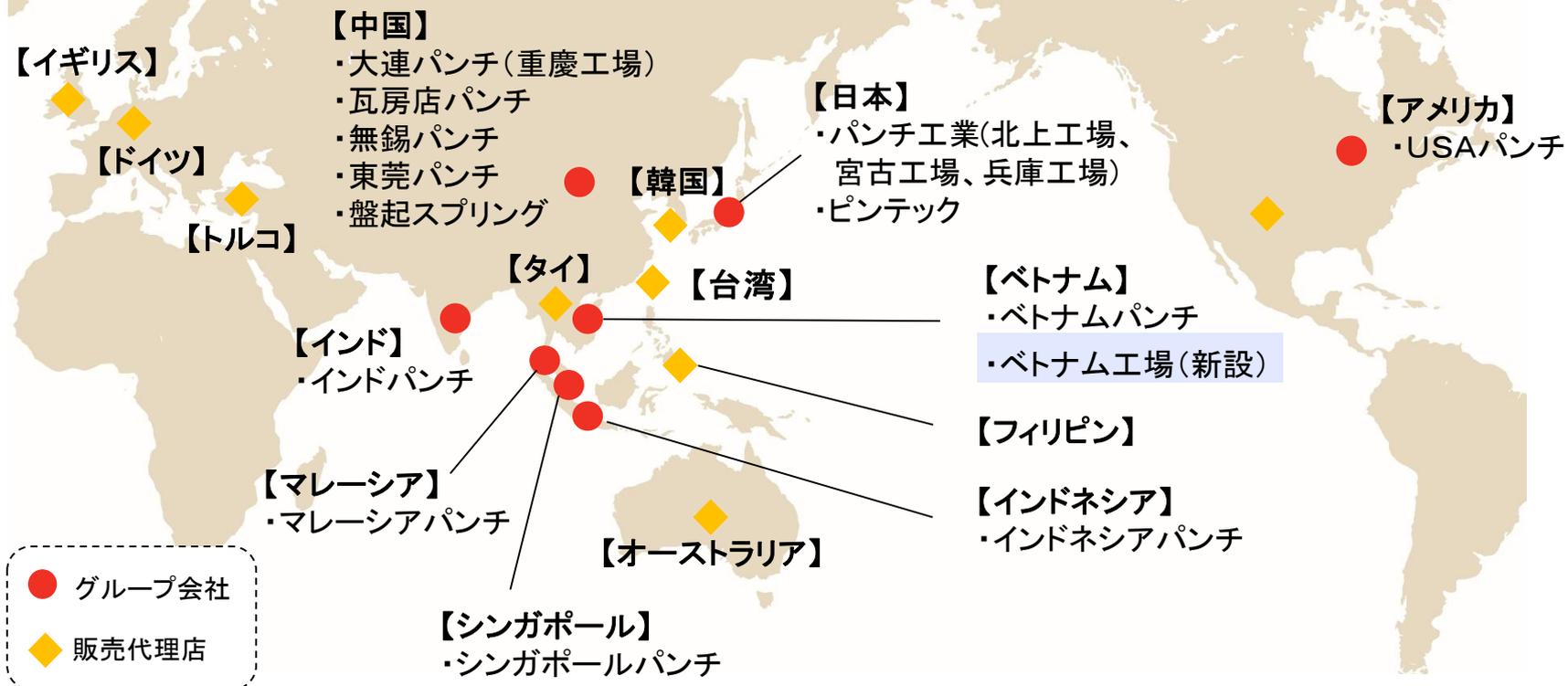
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

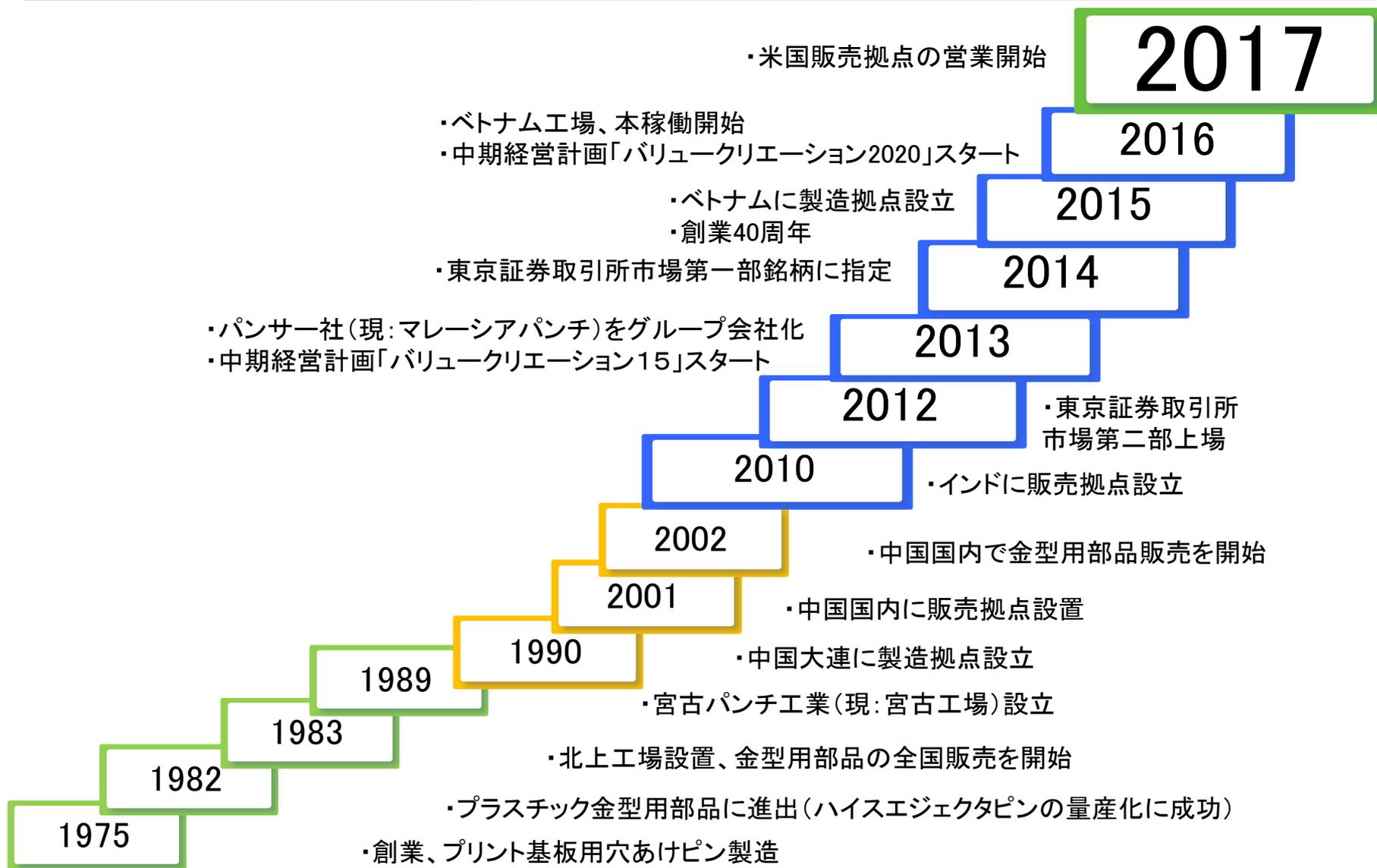
日本	海外
4	8
カ所	カ所

販売拠点数

日本	海外
13	40
カ所	カ所

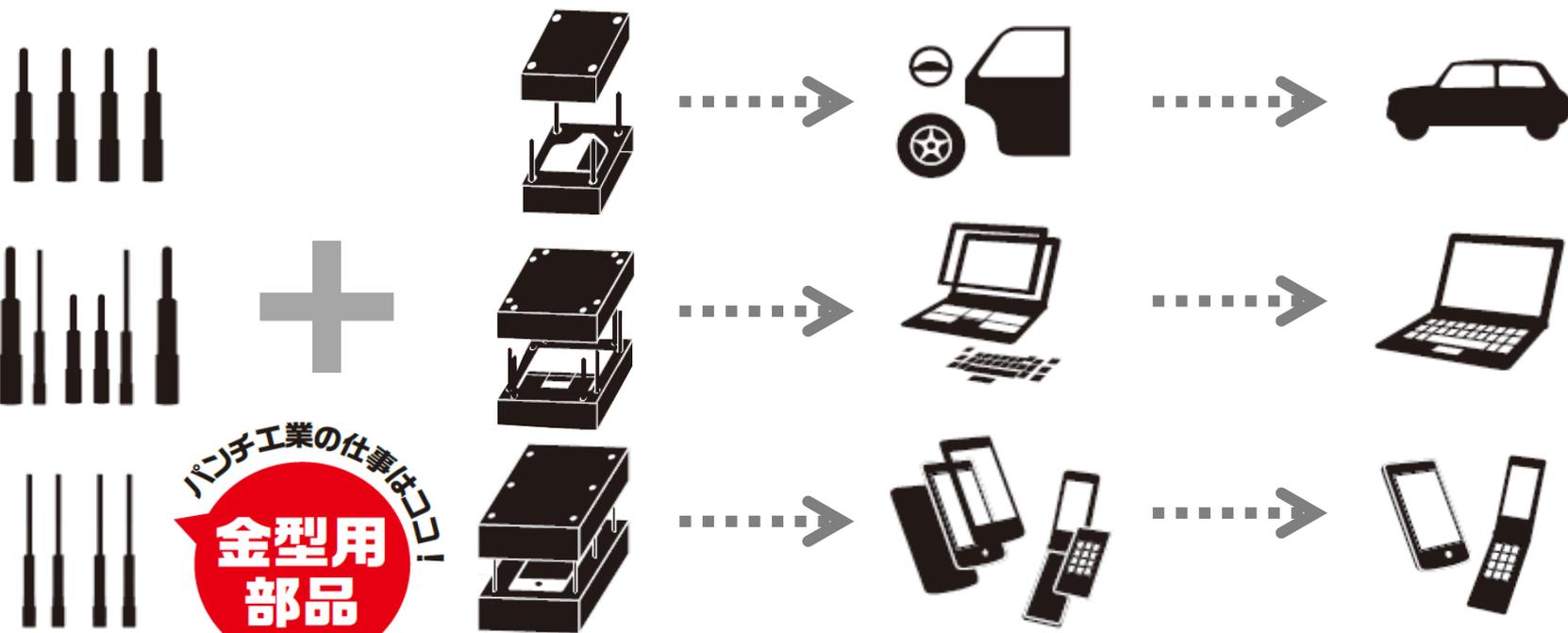


沿革



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



たとえばこんな部品



金型

構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

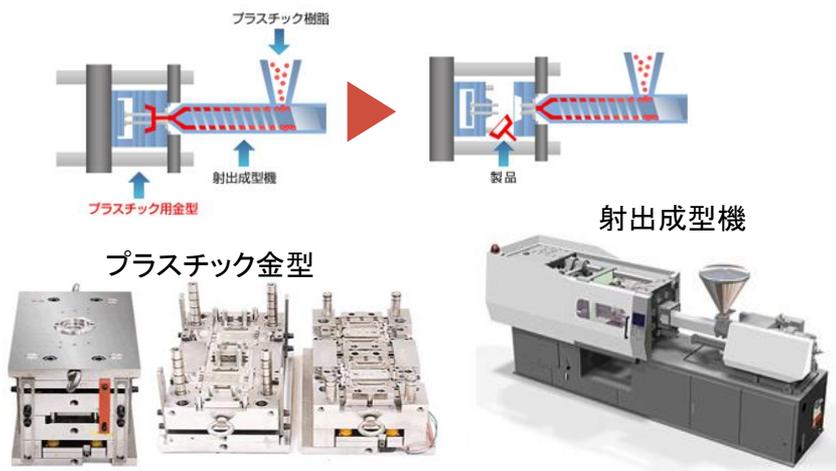
構成部品

製品を構成するために必要となるパーツ

製品

自動車や家電など私たちが身近で使うさまざまな製品

プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン



スプルーブシュ・ロケートリング

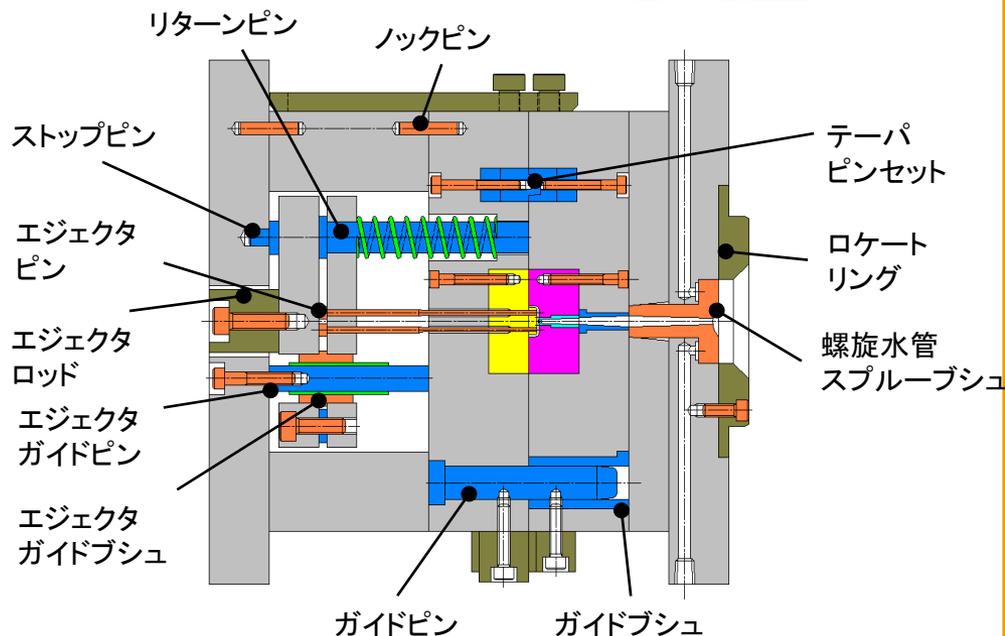
●プラスチック金型用部品について

プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

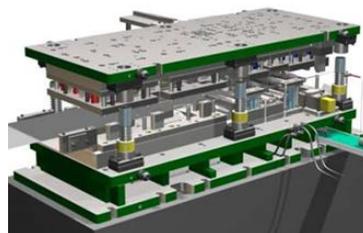
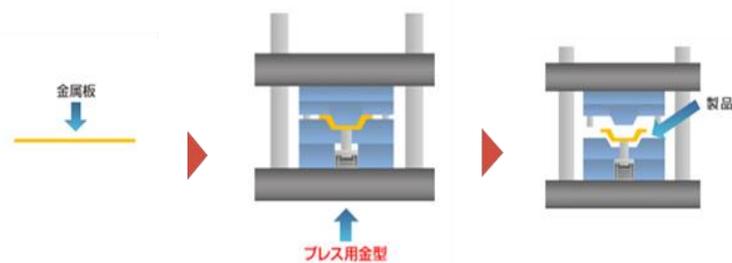
当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品



プレス金型と金型用部品



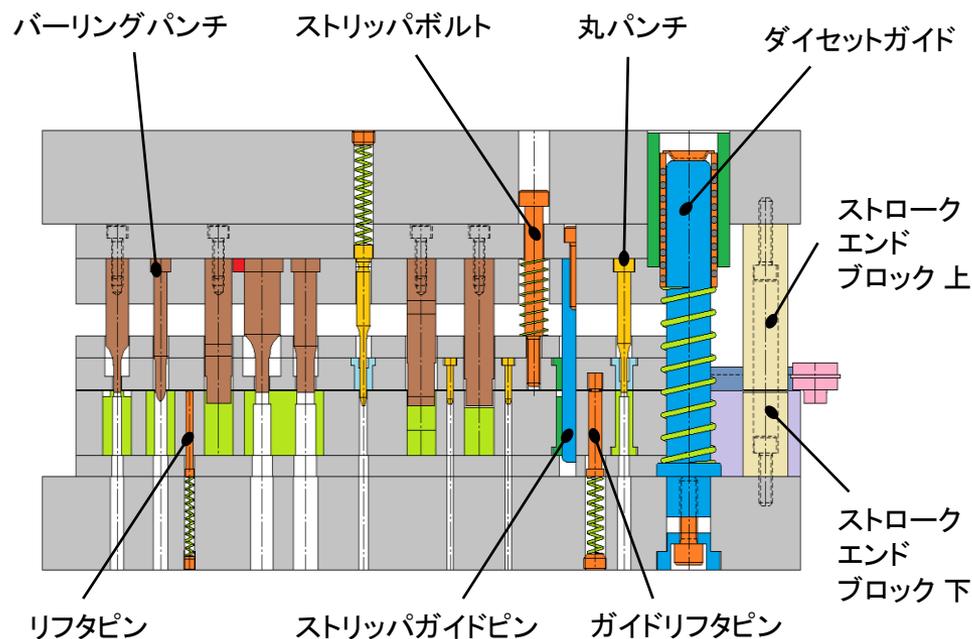
プレス金型



パンチ



ダイセットガイド



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

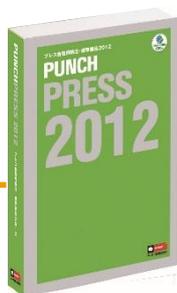
当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ…………… パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド… 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を
豊富にラインナップ

スピーディな
ソリューション

特注品

カスタムニーズにも
柔軟に対応



一気通貫の生産体制

1,700台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制

きめ細かな対応・提案力

高い技術力

創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

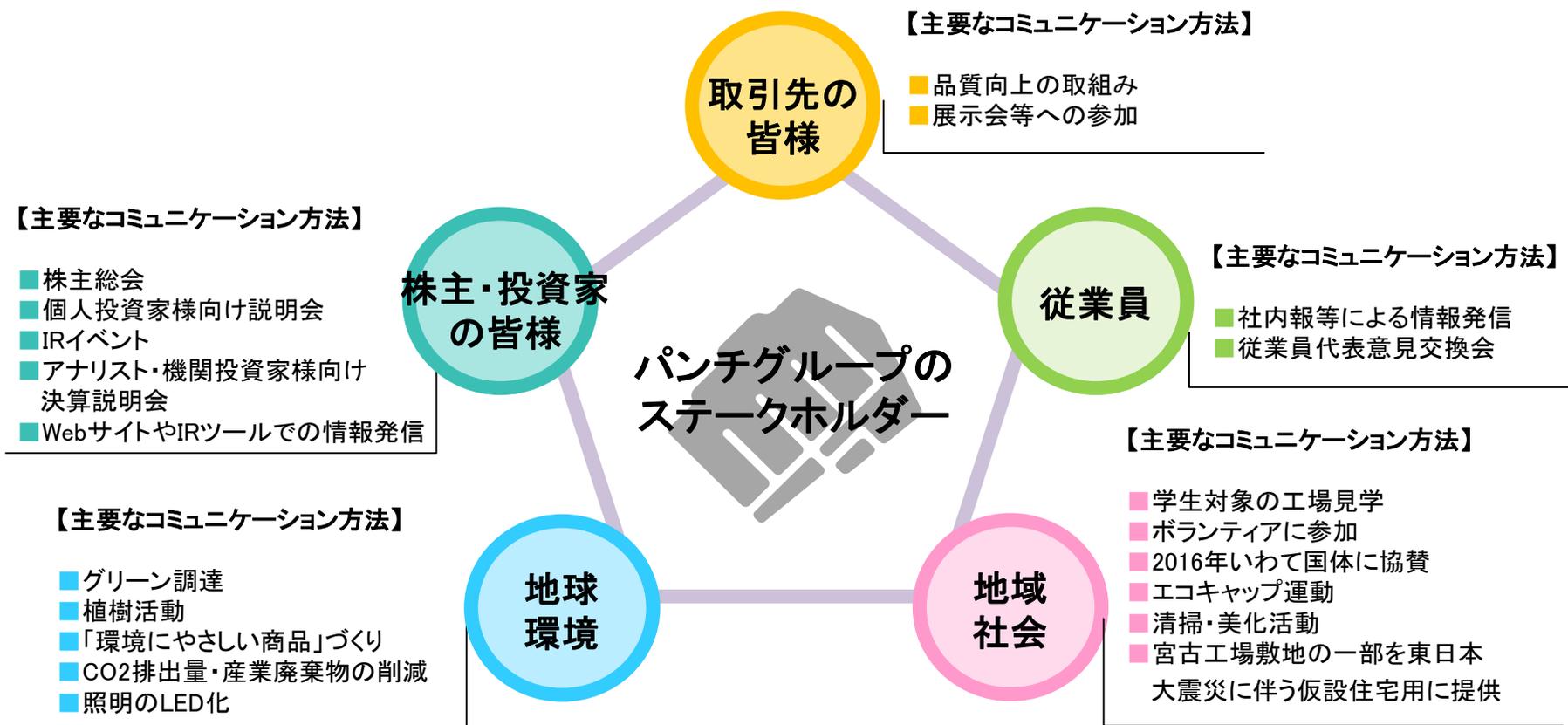
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



個人投資家様向け会社説明会の様子



植樹活動の様子



エコキャップ運動



【いわて北上マラソン】
マラソンボランティアの様子

本日は、誠にありがとうございました。



【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。